



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2019年04月22日 第916号「週刊五十嵐レポート」

マイナーからベンチャー

4月19日付、日経新聞スポーツ欄に「アスリート事業家の冒険(4)」『『メダルをとれば』は幻想』(日本フェンシング教会会長太田雄貴氏)の記事。

メダルを取ったら人生変わるぞ。メジャーになれるぞ、と言われ続けてきた。しかし、メダルを取っても国内の大会はいつもガラガラ。強くなれば見えてもらえるというのは幻想で、大会そのものが変わらなければダメだ。

防具に隠れて選手の顔が見えない。ルールが複雑でわかりにくい。この2点がフェンシングの人気拡大で大きなハードルになってきた。それがフェンシングだというのは簡単。しかし変化を拒んでいては生き残れない。

昨年12月、フェンシング日本選手権決勝は「ジャニーズの聖地」東京グローブ座を会場にした。前年の約4倍の5500円で販売したチケット約700枚は40時間で売り切れた。軽妙なDJの語りとダンサー。選手の心拍数まで表示。試合をわかりやすく伝える工夫をして満員の場内は沸き立った。

日本協会が取り組んでいるのがサーブル、エペ、フルーレに次ぐ「第4の種目」の開発。映画「スターウォーズ」に登場する光の剣「ライトセーバー」を参考に用具開発とルール作りの真っ最中。対戦形式も1対1とは限らない。2対2や3対3、もしくは多数方式もあっていい。現在約6000人の国内競技人口を5万人に増やす目標を掲げる。成功すれば、用具売上や大会参加料、スポンサー収入などが日本協会の収益の柱に育つ。意識するのは、メダル至上主義からの脱却であり、自ら稼ぐ力のある協会への変身。

すべてはゴールから逆算して戦略を立てる。フェンシングで一番学んだのは、足りない自分が世界で勝つにはどうすればいいか、ということ。ヒトもカネもない協会を勝たせる挑戦に似ている。大事なのはどこで勝負するかという「戦略」。「ベンチャースポーツ」。マイナースポーツの代わりに好んで使う言葉。小さいがゆえに柔軟性や身軽さ、スピード感を生かして、スポーツ界のフロントランナーになる。

弱者の戦略。まず「できる」「やれる」と言葉を発してから思考し、行動する。

ちょっと
気になる出来事

4月21日(日)付、朝日新聞のオピニオンは「カイシャの会議」。

パーソナル総合研究所の調べによると、

会社規模1500人で会社全体の年間会議時間は41万7600時間。ムダだと思われる年間会議時間は9万2000時間、約46人分の年間労働時間に相当。ムダ会議に費やしている年間総人件費は約2億円。

ムダだと感じている要因は、「会議が終わっても何も決まっていない」、「終了時間が延びる」、「ささいな議題で会議を開く」など。

今回の調査は、時間や費用の「見える化」。経営者層に会議の見直し⇒会社を伸ばすために取り組むべき経営課題」と理解してもらうこと。

会社は粗利益で生きている。営業マンの時間の使い方を見ると、「移動時間」+「社内業務時間」+「お客との面談時間」。このうち粗利益が生まれるのは「お客との面談時間」。「移動時間」、「社内業務時間」は必要だけでも粗利益は生まれない。会議は社内業務時間に入る。ムダな会議はロス。調査では1500人規模で2億円のロス。このロスは音がしない。中小企業にとっても会議を見直す機会になれば。



一口メモ
知識

自分が正しいという思いこみ

相手を許さないのは、「自分が正しい」と思い込んでいるからです。しかし、「自分が正しい」というのは、この世ではあり得ないことです。ケチをつけようと思えば、だれでもつけられます。しかし、その権利が自分にあるのかどうかです。

よくみれば、自分だって良く間違えるし、失敗するのです。すべてのものは不完全。何一つ完全なものはない。それが真理です。

「いかに完全に近づくのか」ということが、生きる道です。その道は限りがなく、一生続くのです。

「ブッダの教え一日一話」(PHP研究所/アルボムッレ・スマナサーラ)より

- 「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時~12時
- 「戦略社長塾東京」小岩校 土曜隔週(第2・第4) 午後2時~6時
- 「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

(株)五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5
TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 i-daruma@igarashireport.com



新経営の志手帳